

大学院ニュースレター

久留米大学大学院医学研究科

45号／2007年12月27日発行

編集／医学研究科科长

『何のために研究をするのか』

小児科学講座 教授 芳野 信

我々の医局の壁に十数年前から1枚のポスターが掲げられている(別掲をご覧いただきたい)。幼児がトイレトペーパーのぶら下がった壁に向かっておまるで用を足している光景が描かれており、その下部に'No job is finished till the paper work is done.'との言葉が添えられている。言うまでもなく、研究はその成果を論文(ペーパー)として刊行して初めて完成するという事を排便後にトイレトペーパーで尻をぬぐうと言う行為になぞらえたメタファーである。いささか尾籠ではあるが、印象に残る言葉ではある。これは今でも研究に携わるものにとってほぼ共通認識であろう。

最近、京都大学の研究グループが培養皮膚線維芽細胞を用いて胚性幹細胞作成に成功したことが、大きなニュースとして報道された。本技術の開発を巡って、米国の研究グループとしてのぎを削っている中での成功であった。このことが大々的に報道されたのは、学問的意義の大きさもさることながら、特許権の問題もあるからである。我が国独自の新奇な知識や技術の開発とそれに対する特許権の獲得は、我が国の特許使用料を低減するのみならず海外からの特許料収入による莫大な収入が見込まれる。このことは、研究者が公費の補助を受けて行う研究が、単にその成果を刊行するだけで良しとするのではなく、研究の内容によっては、さらにその成果について特許権取得を含む社会還元への努力が求められていると言えるのではないかと考える。研究は多かれ少なかれ何らかの社会的資

産を消費して行われるのであるから、これも研究者の社会的責務であろう。

最近、本学大学院医学研究科博士課程に所属する院生が研究経過報告会で成り行きを報告した折、その成果を特許申請するようにとのご指導を頂いた。もとより、私も研究成果を特許申請するという事自体は知らないではなかった。しかし積極的に申請を試みるという姿勢が乏しかったのは事実である。大いに反省させられ、かつ刺激を受けた。

従来、大学教員の仕事は、教育、研究はもとより上級教員は *administration*、さらに医学部がある大学では診療も加わるとの認識があった。今ではさらに、研究成果に基づく特許権獲得を通じての大学資産形成への寄与も教員の義務の一つと考えられるようになった。すでに欧米、特に北米の大学の一部ではその資産のうちこのような特許権収益がかなりの比率を占めているという。このような観点から、冒頭のポスターの文言は、いまや、'No job is finished till another paper work is done.'と書き換えられるべきである。この場合、成果をまず論文として刊行すべきことに変わりはないが、次の (*another*) ペーパーワークとは、もとより二重投稿の勧めなどではなく、研究成果の特許申請である。

私が大学を卒業した時代は、まだ個人の学問的関心または情熱が研究の唯一にして至高の原動力であるという考えが支配的であった。その研究成果の評価にあたってはその実利性はあまり問題とされず、成果の科学的な重要性、そしてその具体的指標

としてどのような雑誌に掲載されたかだけが関心事であり、研究費の提供者に対する還元という意識はほとんどなかった。実は私自身は未だにこの古き良き時代へのノスタルジアにちょっぴり憧れをもっているものである。これは現在でも普遍の真理であると信じている。これからの研究を担う院生の方々に、実験の合間に、自己の学問的関心あるいは情熱と研究成果の社会還元とのバランスをどの辺に求めるかを考えてみることも無駄ではないことをお伝えしたい。



ティールーム



大学院教育カリキュラムの改正と平成20年度への展望

大学院医学研究科の教育改革の現状や最新情報を提供する本稿も、平成17年12月発行の第37号から連続して9回目を迎えました。第37号が発行されたころは、平成17年9月に中央教育審議会から答申された「新時代の大学院教育」により、「今後の日本の大学院教育のあり方として、制度整備・量的な充実（知識基盤社会整備）から国際水準に適合する教育研究機能の強化を主眼とした「国際競争力の増強」と、「科学技術創造立国実現」のために高度専門職業人養成のための専門職大学院のあり方と現行（修士・博士）制度を含めた総合的な見直し」が求められていました。

その後、平成18年3月に文部科学省では「大学院教育の実質化」を柱とした「大学院教育施策振興要領」を策定し、平成22年度を目標とした大学院教育改革の実行を各大学に求めることとなりました。さらに、国家予算の重点配分・傾斜配分を一層強化し、平成17年度から実施された「魅力ある大学院教育イニシアティブ（平成18年度で募集修了）」、平成19年度から募集開始された「大学院教育改革支援プログラム」のほか、「がんプロフェッショナル養成プラン」「グローバルCOEプログラム」などの国家的・社会的要請とタイアップした新規事業を展開しています。

こうした背景から、平成18年8月に開催された第19回医学教育ワークショップにおいては、卒後教育部会（大学院部会）が初めて設置され、今後の「魅力ある大学院教育構築」に向けて、さまざまな角度からの提言を頂きました。また、早速平成19年度から開始された「がんプロフェッショナル養成プラン」に、本学大学院医学研究科を含む九州地区医科系大学で共同申請し、採択されることとなりました。

さらに、今後も大学院教育改革を促進する観点から、平成20年においては、教育カリキュ

ラムの改正を重点に据え、「魅力ある教育プログラムの編成・実践・実質化」を目指していきたいと考えています。

今回の改正案については、平成19年8月～9月にかけて大学院医学研究科委員会委員を対象に行われた「平成20年度大学院教育カリキュラム改正予備調査」の結果、第19回医学教育ワークショップ卒業後教育部会での提言などを基に、改正骨子（案）として10月に提言されています。

現在、このカリキュラム案の具体的改正作業を継続しています。当初の作業計画から諸般の事情により遅延しておりますが、1月にはカリキュラム案を策定し、研究科委員会に付議する予定です。（俊）

～具体的な改正内容(案)～

共通目標：

- (1) 全専攻科目について開講科目の見直しを行う。科目数を整理統合しスリム化する。
- (2) 大学院特別講義の活性化。

修士課程：

- (1) 専攻科目、準専攻科目へ名称変更。
- (2) 演習科目あり方の変更。
- (3) 在学期間を3年間（標準2年間）とする長期履修者コースを設定する（平成20年入学者から開始）。
- (4) 臨床看護学群「がん看護論」に「専門看護師養成コース」を設置申請する。
- (5) バイオ統計学群の授業科目の見直し。

博士課程：

- (1) 各専攻科目から提示された授業科目のあり方の変更
- (2) 「九州がんプロフェッショナル養成プラン」採択に伴う、専門医養成コースのあり方の見直し。特に、「放射線腫瘍専門医養成コース」の開設。
- (3) 博士課程共通科目の開設
- (4) 博士課程全専攻に「STEP UPシリーズ（仮称）」の開設（選択必修）。
- (5) 博士課程2年次及び3年次に必修の論文指導実習を開設
- (6) 博士課程4年次に「アドバンストコース（仮称）」を開設（選択）

※ なお、新カリキュラムは原則平成20年度入学者からの適用となりますが、一部の講義は履修可能とする予定です。

図書館だより



◆大学院医学研究科 学生の皆様へ

文献複写依頼の利用講習会開催

標記については図書館システムの更新に伴い、学外への文献依頼の方法が変更となりました。

学外文献の申込方法についての講習会を下記のとおり開催致しますのでご参加ください。

《概要》

日時： 月～金までの10時から16時

時間： 1回30分程度

場所： 医学図書館3階

参加人数： 1講習につき2名程度

申込方法： 希望日時を下記メールアドレスにてお申し込みください。都合によりご希望に添えない場合もありますが、その場合はこちらよりメールにてご連絡致します。

igaku_service@kurume-u.ac.jp

担当： 野村（内線3086）

※ なお、医学図書館HPの学外文献依頼マニュアルのダウンロードができます。

http://moon.med.kurume-u.ac.jp/medlib/sin_bunnkenn.pdf



事務通信

大学院医学研究科 ホームページリニューアルのお知らせ

本学大学院医学研究科ホームページについては、前号本ニュースレター第44号でもお知らせしたとおり、情報の即効性に欠ける点や学生向け情報の公開が不足しているなどの問題点を解消するために、大学院医学研究科ホームページリニューアル作業を現在進行しております。

この間、医系講座・研究所・センターをはじめ学内機関の関係者の方には、お忙しい中原稿作成などご協力いただき感謝申し上げます。12月上旬現在、基本デザインの設計を終了し、最終的な構築作業を進行しております。

今後の作業としては、原稿の最終確認等を行い、平成20年1月上旬に学内公開を行い、中旬には学外公開を実施する予定で作業を進めております。(俊)

～ホームページ掲載内容のご紹介～



- ・カリキュラム、講義計画など
- ・特別講義実施計画
- ・入試情報
- ・ニュースレター（電子版）
- ・学費、奨学金に関する情報
- ・学位申請に関する情報
- ・各種書式・届出用紙ダウンロードサービス
- ・医系倫理関係情報
- ・学生生活情報
- ・在学生向け情報、What's New

◆修士課程 第2学年学生の皆様へ

学位論文提出と年度末スケジュール



1. 学位論文申請書類と提出期限

〔提出期限：平成20年1月25日（金）17時（時間厳守）までに庶務課に提出〕

- | | |
|----------------------|------------------------|
| ①学位論文審査願：1通 | ⑤論文要旨：1通 |
| ②主論文：5通（印刷公表が望ましい） | ⑥履歴書：1通 |
| ③参考論文：各3通（作成している者のみ） | ⑦単位修得証明書：1通（教務課にて準備する） |
| ④論文目録：1通 | ⑧写真（4×3cm）：2枚 |

※申請書類については、所定の書式を医学部事務部庶務課よりメールで送付するので、医学部事務部庶務課 担当：阿久根（内線3014）まで問い合わせること。

2. 口述試験〔期間：平成20年2月1日～2月20日〕

3. 学位記授与式〔平成20年3月26日〕



◆博士課程 第1学年学生の皆様へ

研究題目調査実施について

博士課程第1学年学生の皆様を対象に平成20年2月中旬ごろ研究題目調査を実施します。この調査は博士課程在学中の各自の研究テーマを調査するためのもので、久留米大学院医学研究科規程第6条に基づき第2学年前期の始まる前までに調査することと定義されております。調査書類が届きましたら、必要事項記入の上、期日までに必ず医学部事務部教務課まで御返送下さい。



◆博士課程 第4学年学生の皆様へ

学位論文提出の手続きはお済ですか？

博士課程第4学年学生の皆様で今年度中に学位論文提出手続きの修了を希望されておられる方は、既に配布したスケジュールに沿って提出をお願いします。なお、提出されない方については、平成20年2月中旬ごろを目途に医学部事務部教務課から「在学期間延長・単位修得満期退学希望調査」を実施しますので、その際にご回答をお願い致します。



お知らせ



「ロレアル-ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」の募集について

「ロレアル-ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」事務局より、生命科学、物質科学の分野において、博士課程（後期課程）に在籍あるいは、博士後期課程に進学予定の40歳未満の女性を対象に奨学金無償給付のお知らせが届いております。詳細につきましては、医学部事務部教務課 担当：林（内線3021）までお問い合わせ下さい。

前期入学試験結果

10月16日に行われた前期入学試験の結果は下記のとおりとなっております。
後期試験については次項のとおり実施いたします。

	志願者数	受験者数	合格者数
修士課程	8名	8名	8名
博士課程	8名	8名	7名

平成20年度大学院医学研究科後期入学試験概要

試験日程

- 後期（修士・博士ともに同一）
出願受付期間：1月28日（月）～ 2月8日（金）必着
試験日：2月19日（火）
合格発表日：3月17日（月）午前10時
※ 他に出願資格審査期間を設定しているので注意すること。



試験内容

- 修士課程：（基礎医学群・社会医学群・分子生命科学群・臨床基礎看護学群）
→ 英語・小論文・面接
（バイオ統計学群）
→ 英語・面接
- 博士課程：英語・面接

編集後記

早いもので2007年も残すところわずかとなりました。本文でもお伝えしたとおり、年末から年明けにかけての大学院一大イベントとして、ホームページのリニューアルがあります。このニュースレターも電子版となり、ホームページ上に掲載されるわけですが、世界中の人々が目に見ることができることになって、身の引き締まる思いです。見やすく、わかりやすく、そして親しみやすくを目標に頑張っていきたいと思いますので、今後ご愛読の程どうぞよろしくお願いいたします。（中）